

# 岐阜県 商店街だより

第390号 2017.2.20 2月号

発行元

岐阜県商店街振興組合連合会

岐阜市藪田南5-14-53

TEL058-277-1107



## 中津川

1/9(月・祝)

## 年の初めの大賑わい 中山道本町新春宵まつり

■主催：本町商店街振興組合・中山道こまちの会

1月10日に中津川市の中心市街地で、毎年恒例の第122回十日えびす大祭が、東濃一社中津川西宮神社を中心に行われました。中津川市の各商店街の道路は全て歩行者天国に

### ▲十日えびす大祭のチラシ

なり、商店街の新年セールと商店街全域を巡る七福神スタンプラリーが実施され、中津川市の商店街では、春と秋の六斎市中山道祭りに次ぐ、盛大なイベントになっています。

本町商店街振興組合は、十日えびす大祭の前夜祭イベント「中山道本町新春宵まつり」を、毎年、中山道こまちの会と実施しています。開催時間は例年通りの17時～20時の予定でしたが、今年は成人の日と重なり祝日だったためお客さんが早く集り、16時からイベントを開始し19時頃には準備した商品を全て完売しイベントが終了しました。昔は長い時間イベントを開催し、泥酔客が多いのが問題でしたが、この5年間くらいは短い開催時間で盛り上がり、すぐに片付けられるので、実施スタッフの負担が少なくなりまし



### ▲完売した出店

た。

イベントの実施場所は、昨年まで商店街の通りで開催していましたが、今年からは「ほんまち広場」で開催しました。来街者には、平成28年4月に設置したスピーカーで会場を案内したところ、スムーズに誘導することができました。商店街の関係者は、「スピーカーは案内しやすくて設置効果大です。」と話していました。

ステージイベントは、餅つき大会・中津川太鼓の演奏・恵比寿様のじゃんけん大会が実施されました。

女性部のこまちの会は、すいとんの無料サービス・おでんフランクの販売・フリーマーケットを実施しました。すいとん無料サービスは長年人気で、集客の目玉になっています。フリーマーケットの販売は好調でした。本町商店街の出店の串ものと熱燗の販売



#### ▲ステージイベント

も好調で、150人前の串ものは2時間で完

売しました。

中山道本町新春宵まつりの実行委員の方にお話を伺ったところ、「本町商店街は駅から遠いので厳しい環境ですが、団結してイベント等に取り組んだり、お客様を大事にする伝統があります。今日はお客さんが多く集まって良かったです。」と意気込みとイベントの成果を話していました。

#### 【参考となるポイント】

- 団結してイベントに取り組む姿勢
- スピーカーの活用
- 短い開催時間で盛り上がるイベント

# 高山

2/3(金)

## 七福神豆まき巡行 鬼と七福神が商店街を練り歩く！

■主催：国分寺通り商店街連合会 ■協力：高山市商店街振興組合連合会・国分寺・節分会・高山信用金庫

節分の2月3日(金)の午前9時～午後9時まで、高山市内の商店街を鬼と七福神とおてもやんが豆まきをしながら練り歩く「飛騨国分寺節分祭 七福神豆まき巡行」が開催されました。飛騨国分寺の「節分星まつり」は、400年の歴史を持つ伝統行事です。七福神豆まき巡行は、近隣有志の節分会により数十年前から冬の風物詩として高山市民に大変喜ばれていました。しかし、後継者難等の事情で数年間、七福神豆まき巡行が実施されず、市民から「寂しい」「昔の様な賑わいが戻ってほしい」との声が多く上がりました。そこで、平成20年に地元商店街である国分寺通り商店街が中心となり、国分寺・節分会・高山市商店街振興組合連合会の協力により七福神豆まき巡行を復活させました。

巡行チームは赤鬼と青鬼の2チーム編成。各チームは鬼、七福神、おてもやん、誘導係2名、メガホン係1名、鐘係1名、撮影係1名、絵馬係1名の15人+数人という大がかりな構成がされていました。去年は、実行人員数の問題により1チームで巡行したところ、市内の商店を回り切れなかったことから、今

年は公募などにより人員数を確保し、2チーム編成されました。1チームは午前9時から



▲用意した絵馬

巡行を開始することで、高山市内商店街の約300店を巡行する事ができました。巡行は商店街に未加盟の店舗や希望者の民家も巡り、合計で約700軒を巡行し、準備して



▲記念撮影

あった絵馬は全て配布しました。サポートスタッフが軽トラックで絵馬と豆を巡行チームに補給し、巡行チームの負担を軽減していました。

巡行チームの誘導係は、店舗に先乗りし、各店舗の豆の撒き方の要望を確認します。豆の撒き方の要望は各店舗毎に、「思いっきり」「少な目」「入り口だけ」「手渡し」「お客さんに手渡しサービス」と様々でしたが、豆まき担当の七福神が店舗の要望通りに実行するので、どの店舗でも大歓迎され、店員さんはスマホ等で記念撮影してはしゃいでいました。

夕方からの豆まき巡行は、昼に営業していない飲食店を回りました。日没後、道路は凍結する程の寒さでしたが、巡行チームは「鬼は外」の掛け声と鐘の音を響き渡らせ、お座敷や居酒屋などを盛り上げました。

国分寺通り商店街のショウウィンドウには、今年の七福神豆まき巡行の写真が飾られ、節分祭を盛り上げていました。写真は、店舗毎に撮影した写真を実行委員会が一月前に配布しています。

鬼は乳児を見つけると駆け寄って厄払いの抱っこをします。乳児は大泣きしますが、保護者は有り難がったり、記念撮影をしたりしていました。幼児は鬼を見つけると「鬼は外」と叫びながら元気よく豆を投げつけるので鬼は退散していました。外国人などの観光



#### ▲子供達を厄払いで抱っこ

客は、鬼や七福神を見かけると大喜びして記念撮影をしていました。

巡行チームの方にお話しを伺ったところ、「スタッフ集めに苦勞しますが、鬼と七福神とおてもやんは豆まき巡行に無くてはなりません。商店街の店舗は全部回る様にしたいです。」「やりだしてしまえば仮装ものは喜ばれるので楽しいですよ。」と話して下さいました。参加協力スタッフがイベントを楽しみながら街を盛り上げる、素晴らしい取り組みでした。

#### 【参考となるポイント】

- 各店舗の要望に応じた豆まきの実施
- 店舗ごとに撮影した写真によるイベントPR
- 充実した来街者サービス

柳ヶ瀬

12/17(土)

今年もいっぱいありがとう  
クリスマスだよ！全員集合@柳ヶ瀬本通

■主催：柳ヶ瀬本通会

12月17日(土)に柳ヶ瀬本通りを中心に、子供向けのクリスマスイベントが開催され、子供達が大集合して盛り上がりました。イベントの主な内容は、「お買い物ごっこ」「クリスマス飾りの展示」「サンタさんに手紙」「写真撮影コーナー」でした。

お買い物ごっこは、仮設おかし店舗「やななや」に小学生以下の子供が来ると、おもちゃのお金「やながせこどもぎんこう」10円券が3枚もらえ、お買い物体験ができるお菓子のプレゼントでした。この企画は柳ヶ瀬本通会が、子供たちが将来の柳ヶ瀬のお客様

になって欲しいと考え、昨年まではお菓子をプレゼントするだけだったものに、お買い物体験の工夫を加えました。集まった子供達は仮設店舗に陳列した色とりどりのお菓子を選び、店員さんに「やながせこどもぎんこう」の10円券を手渡して、好みのお菓子を満足そうにもらいました。



#### ▲お買い物ごっこ

子供達の保護者には、柳ヶ瀬本通りで12月24日に行われる、歳末市のお得情報サービス券を配布し再来街を促していました。歳末市のサービス券の内容は、柳ヶ瀬商店街本通り15店舗の「店内10%OFF」「お食事千円以上でソフトドリンク1杯進呈」などでした。

クリスマス飾りの展示は、にぎわいまち公社と岐阜市が主催した「クリスマスかざり2016 in やながせ」で、柳ヶ瀬商店街86箇所に、市内の幼稚園と保



#### ▲園児が作ったクリスマス飾り

育園の園児が作成した、約130のクリスマス飾りを、12月13日(火)～25日(日)の期間に展示しました。このクリスマス飾りをにぎわいまち公社のスタッフが受け取る際に、子供達へのクリスマス飾り作成のお礼をかねて、お買い物ごっことお楽しみイベント「やな♡クリ」の案内チラシを子供達に配布し、商店街の集客に繋げました。

おたのしみイベント「やな♡クリ」は、まちなか情報交流拠点「柳ヶ瀬あい愛ステーション」で、4つの企画とやながせサンドクリスマス特別編が行われました。4つの企画は、①サンタさんに手紙を書こう②ソリに乗って写真を撮ろう③Instagramパネルを持って撮影④ゆっこちゃんのクリスマス紙芝居でした。

サンタさんに手紙を書こうのコーナーは、準備した手紙用紙に子供達が鉛筆とクレヨンでサンタさんに手紙を書き、壁に設置した大きなクリスマスツリーの台紙に手紙を飾り付けました。手紙はフィンランドのサンタクロース村に送ることになっています。ソリとInstagramの撮影コーナーは、子供達がサンタやトナカイの帽子や被り物をして、保護者やスタッフが写真撮影をしました。ソリは撮影スポットに置いてあるだけで揺れたり動いたりしないのですが、子供達はクリスマスのサンタ気分を、衣装とソリで体験できるのが楽しい様子でした。

13時から子供向けのクリスマス紙芝居を、ご当地タレントのゆっこちゃんが上映しました。紙芝居の始まりは、拍子木と手拍子で拍子を打つトレーニングで景気よくスタートし、タコをロープで引っ張るシーンでは、集まった子供達が「よいしょ、よいしょ」と掛け声をしながら紙芝居を楽しんでいました。

毎月実施されている柳ヶ瀬サンドのクリスマス特別編ステージが開催されました。ご当地ゆるキャラとご当地アイドルがクリスマス衣装で登場し、トークショーや記念撮



▲紙芝居の様子

影、お笑いステージ、クイズ大会が行われ来街者を楽しませていました。

多数の企画によって集客し、参加スタッフの誠意溢れるサービスで来街者が楽しんだイベントでした。

#### 【参考になるポイント】

- お礼のお菓子プレゼント
- 集客方法の工夫
- 多数の企画の実施

【取材・記事 中小企業診断士 上村真太郎】

## 平成28年度指導事業実施報告

### 県商連

平成29年2月3日（金）午後1時30分～午後3時30分、ふれあい福寿会館（岐阜市藪田南5-14-53）に於いて、県内商店街関係者や行政、商工会議所等の方を対象に、岐阜県商店街活性化セミナーを開催いたしました。基調講演は「中心市街地活性化のツボ」と題し、中小企業基盤整備機構 震災復興支援部 参事 長坂泰之氏、事例発表として、まちひとぷら座かんかこかん 運営委員長 伊藤早苗氏、瑞浪市商店街連合会 会長 安藤良一氏にご講演いただきました。

長坂氏の基調講演では、まちの役割は以前よりも限定的であり、これまでとは大きく異なってきているため、活性化の処方箋が違っています。これまでと同じ処方箋では、生き残ることができません。活性化のキーワードの一つ目は「魅力」。二つ目は、「三方よし」で考えることです。三方とは、「行政にとっても、事業者や地域で活動している人にとっても、市民・消費者・来訪者にとっても良い。」ということです。

全国の事例として、東日本大震災で被災した陸前高田市中心市街地では、震災前からの借金を抱えた事業者がたくさん存在し、これから事業を再開していく資金を調達するた

めには、二重、三重のローン問題を解決しなければならないのが現状です。年齢、資金、意欲等から、力が残っているかを良く考え、やめる勇気も必要という事業者もいます。

復興のヒントとしては、イニシャルコストは調達できても、ランニングコストがかかって継続できないことがあります。お金のかからないハードを持つことが大切です。

兵庫県尼崎市では、イメージの悪い工業都市であるため、誰も来てくれず、産業も人口も衰退する一方でしたが、誰も褒めてくれないのなら自分たちで褒め合ったらどうかと考え、尼崎の自慢できる商品のコンテスト「メイドインアマガサキ」をスタートさせました。「メイドインアマガサキ」の商品をコンテストするだけではなく、商店街で売ってみると（メイドインアマガサキショップ）、オープン当日、地元のソースやポン酢が飛ぶように売れました。ブランドではなかったものが小さなブランドになり、小さなブランドが集まると大きなブランドに見えてくるのです。「メイドインアマガサキ」の取組は、自分達を自分達で褒める→素材を磨いてブランドに育てる→小さな魅力を集めて大きな魅力にする→小さな魅力をターゲット毎にまとめる→ターゲット毎にキャラクターを作り、マップを作る→ターゲット毎にまち歩きツ

アーを企画する→これまで来なかった人たちがまちに来てくれるというものでした。

この他にもたくさん事例を話して下さいました。

次に、まちひとぷら座かんかこかん運営委員長の伊藤氏から事例発表を行っていただきました。



「まちひとぷら座かんかこかん」は、平成15年の春、古いまち並みに隣接する高山安川商店街の空き店舗に開設されたコミュニティ施設です。「どなたにも気軽に立ち寄っていただける“まちの縁側”」をコンセプトに、人々の出会いと交流の場となることを目指しています。「まちなかのまちづくり」や「子育て支援」に関心のある市民と、まちなかに賑わいを求める商店街が協力しており、運営は、高山市商連と市民とで行い、行政は協働という形で参加しています。

機能の3本柱は、①こどもひろば(あそび・育児関係・子育て支援)②情報ひろば(情報発信・金曜野菜市・フリーマーケット等)③まちづくりひろば(市民活動の拠点・寺子屋かんかこかん等)です。

かんかこかんの活動の一例として、商店街の夏の納涼夜市の名物になっている「段ボール迷路」は、大人気のイベントです。段ボールは色々なところから頂いてくるので費用はあまりかかりません。迷路作りにはボランティアの協力があります。小学生の子供達が、忍者の修行と称して商店街を駆け巡る「忍者まち探検」。仲間と協力して謎を解きながら、商店主と触れ合えるイベントです。0～3才のお子さんを対象とした「ベビーカーでまち散歩」は、普段、商店街に訪れることが少ないママ達に、ベビーカーで商店街をゆっくり散歩していただくというイベントで

す。店舗からのプレゼントやサービス、プロカメラマンの記念写真、商店街女性部運営のコーヒータム等があり、ママ達に大好評です。この他にも、コミュニティバスを利用した「バス&ウォーク」等があります。

次に、瑞浪市商連の安藤良一氏に事例発表を行っていただきました。



基調講演の講師・長坂泰之氏や斎藤一成氏の著書である「100円商店街・バル・まちゼミ」「100円商店街の魔法」を読み、瑞浪で百縁商店街を開催するに至りました。

「人を集めるだけでは、モノは売れない。」を再認識し、下記100円商店街の基本理念3ヶ条を徹底しています。

①商品は、お客様の目に触れる「店頭」に陳列する。②必ず商品に人を付け、対面販売をすること。③精算は店内に入ってもらい店内でする。

また、協賛イベントとして、商店街スタンプラリーを始め、地元で活躍しているプラスバンド、フォークダンス、キッズダンス等のサークルを巻き込んだ演出、老若男女にわたるイベント、宝探しに挑戦、勝手に綿菓子づくり体験、高校生チャレンジショップなどを実施しています。

イベントの運営は商店街だけでは厳しいものがあり、町の応援団として学生ボランティアをお願いしています。近隣の中学校や高等学校に通う生徒さんが駆け付けてくれ、商店街と学生の良い関係が築けているとのことでした。

受講生からは、「とても良い話が聞けたので、やる気が出てきた。」「もっと詳しいお話を聞きたかった。」等の感想が寄せられました。

**岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。**